

早大・商学部 9月入試の講評

・読解問題。設問は、内容一致問題と該当箇所の語いの意味を問う問題。早稲田大学・人間科学部の に類似している。テーマは自然科学系と社会科学系のみ。特に自然科学系のテーマが多い。'04年の人間科学部は自然科学系のテーマのみであったから、両学部の問題にはかなり関連があると思われる。'04年に実施された「2005年度 早稲田大学 帰国生入学試験」と形式・テーマなどは同じだが、若干英文の量が増え、難易度は増したと思われる。難語が多く含まれ読みにくいし、問われている箇所も難語が含まれていることが多いが、前後の内容を類推していく読み、解き方になると思われる。

・空所補充形式の文法問題。「2005年度 早稲田大学 帰国生入学試験」と形式・問題数(15題)は同じだが、若干やさしくなった印象である。内容は、単語・熟語・文法問題とまんべんなく出題されている。

・正誤問題。この設問形式も人間科学部と同一の形式。問題数(10題)も難易度もほぼ同じである。また、「2005年度 早稲田大学 帰国生入学試験」と形式・問題数とも同じであった。難易度も変わらないと思われる。商学部・2月入試とは違い文法問題の比重が非常に高いのが大きな特徴と言えるだろう。

・自由英作文問題。「2004年度 早稲田大学 帰国生入学試験」は、「新聞・雑誌の情報とインターネットの情報でどちらがいいか」を問う問題で、「2005年度 早稲田大学 帰国生入学試験」は、「テロの脅威に対処するために個人の自由は犠牲にされるべきか」という内容であった。今回は、「貧困の原因が人間にあるのか、また人間の行為によって克服できるのか」を問う問題であった。早稲田大学・法学部、国際教養学部でも出題される形式であるが、両学部とも(身近な)社会問題がテーマである。問題の部分に reasons とか arguments と複数形になっているので、複数の理由や論拠を示さないと大減点になってしまうと思われる。気をつけたい。また、法学部、国際教養学部より解答用紙の余白の部分が大きいらしいので、両学部よりかなり多めに書かないといけないであろう。